

令和6年度 第3回羽島市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

日 時	令和7年3月26日（水）午後1時30分～午後2時30分
場 所	羽島市役所 3階 301会議室
出席者	（委員）出席者7名 布原佳奈会長、高砂房子副会長、浅野直美委員、里雄敬意委員、安藤理加委員、長島秀賢委員、浅野美保委員 （事務局）11名 松井市長、熊崎健幸福祉部子育て・健幸担当部長、高橋教育委員会事務局次長（兼）学校教育課長、國井子育て・健幸課健幸担当課長、牧野福祉課長、佐藤保険年金課長、加藤子育て・健幸課子ども家庭センター所長、衣斐子育て・健幸課子ども家庭センター所長補佐、八島子育て・健幸課課長補佐（兼）子育て支援係長、小森子育て・健幸課幼保支援担当課長補佐、山北子育て・健幸課手当係長
内 容	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）パブリックコメントの実施結果及び羽島市こども計画（最終案）について ―事務局より資料に基づき説明― （委員）義務教育学校として桑原学園が設立され何年か経ったが、義務教育学校になって良かった点、何か問題になった点を伺いたい。 （事務局）1年生から9年生までの幅広い学年が一緒になって活動することで、幅広い出会いや経験ができることによるメリットがある。課題としては、児童生徒数が減っていくことにより、逆に幅が狭まるという点は考えられる。 （事務局）スケールデメリットが発生していることもあるが、上下や年齢の隔たりがなく、情報提供等が可能である。様々な問題点は、大小に関わらず発生しているが、学校の統廃合については、将来の人口動向も踏まえながら、慎重に事柄を対応していく必要がある。 （委員）ゆとり教育が2002年頃から開始され約10年間であったと思うが、国の方針等、学校の統廃合はどのような状況か。

（事務局）他市の例では、近くの学校どうしの統廃合について、合理性の観点からもスムーズに統廃合が実施されたと聞いている。統廃合について国の方針や方針転換がある場合、その全てが羽島市で準用されるものではないと考えている。

（委員）桑原学園は小中一貫であるため、図工や音楽など専門性のある教員が小学校に入って授業を受けることができる点もメリットであると感じる。また、学童期や思春期のお子さんの不登校の増加が問題になっており、居場所づくりに取り組んでいく必要があると思う。さらに、子育てハンドブックは妊娠から乳幼児期に関する内容は充実しているが、フリースクール等の居場所の情報ははじめ、様々な情報を載せることも大切であると思う。

（事務局）子育てハンドブックの内容を充実させ情報を多くすることも大切であるが、情報が多すぎることにより、対象や内容が曖昧になり、探したい情報がなかなか見つけることができないこともある。また、居場所について個別の相談で把握できた方へのご案内はさせていただいている状況である。しかし、フリースクールやこども食堂等の居場所は、市事業でなく民間で運営していることもあり、ハンドブックへの掲載に至っていない現状もあり、今後の検討課題と考えている。

（事務局）居場所づくりについて、自治体単位での対応が難しい部分もあるため、岐阜地域や県全体などスケールを活かした居場所づくりを今後は考えることもできる。同様の課題を抱えた自治体どうしで課題を共有したり、県の参画を得るようなことも考え、今後の検討課題としていきたい。

（委員）こども誰でも通園制度について、必要な提供体制の確保に努めていきますとの記載があるが、受け入れる側の保育園での職員の採用状況はどうか。

（委員）園として職員採用は厳しい状況であり、職員を派遣業者へ依頼している状況もある。誰でも通園制度は利用する保護者にとっては良い施策であると思うが、園としては非常に厳しい面もある。今後、市と相談しながら対応できる範囲で対応していこうと考えている。

(委員) 職員採用試験を園で直接実施しても、なかなか応募が集まらないこともあり、派遣の方を採用させていただく状況も多くある。

(委員) 園の実情もあるみたいなので、誰でも通園制度の実施については、配慮してほしい。

(事務局) 県においても課題を踏まえて、保育士の就職やスキルアップを支援していく等の動きもみられる。誰でも通園制度を直ちに市内全ての園で実施することが可能かどうかという点、各園において様々な事業もあることから、今後、各園と協議を進め、10月頃を目途に園の協力を得てスタートしていきたいと考えている。

3 その他

4 閉会